

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	1473300398
法人名	株式会社 コスモス
事業所名	コスモス長津田
訪問調査日	平成21年3月26日
評価確定日	平成21年5月9日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

**項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年5月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1473300398		
法人名	株式会社 コスモス		
事業所名	コスモス長津田		
所在地 (電話番号)	神奈川県横浜市緑区長津田みなみ台1-6-7 (電話) 045-988-1533		
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成21年3月26日	評価確定日	平成21年5月9日

## 【情報提供票より】(平成21年2月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成14年7月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 3人、非常勤 9人、常勤換算	5.25人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	78,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 320,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 150,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,400 円			

### (4) 利用者の概要(2月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2			3 名
要介護3	4 名	要介護4			0 名
要介護5	1 名	要支援2			0 名
年齢	平均 90 歳	最低	78 歳	最高	103 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	横浜新緑総合病院、新緑ホームケア・クリニック、服部歯科
---------	-----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームはJR長津田駅から徒歩10分ほどの場所にある。事業所前の通りにはスーパーや飲食店などの商店が立ち並んでいるが、事業所の裏手は閑静な住宅街である。  
 理念の趣旨を踏まえて、地域との係わりを大切にすると共に利用者個々人の能力、生活慣習やリズムを尊重し、利用者の必要とするその立場に立ったサービスを提供するように努めている。一人での散歩を好む利用者には、職員に散歩ルートを伝えてから散歩してもらっている。利用者は散歩の途中でケーキショップでのお茶を楽しんだり、近隣住民と立ち話するなどコミュニケーションを図っている。  
 医療連携体制を構築して協力医と看護師の訪問による毎月の健康診断の他に看護師資格を有するパート職員2名が健康管理に当たるなど、利用者に対する健康管理体制の充実に努めている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題は自治会や自衛消防団などとの合同防災訓練の実施及び夜間における災害の発生を想定した訓練の実施である。地元消防署の立会いと指導の下に防災訓練を実施しているが、地域と連携しての訓練、夜間を想定しての訓練は継続課題である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の趣旨、内容について管理者が職員に説明して共有化を図っている。今回の自己評価は管理者が職員の意見等を聞いて取りまとめた。自己評価と外部評価の結果については玄関に置いてそれらを見るように職員に指導している。今後は評価結果のコピーを全職員と家族に配布し、運営推進会議でも取り上げる予定である。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 会議のメンバーは利用者代表、家族代表、自治会長、老人会会長、地域包括支援センター職員、事業所職員で、テーマは事業所の活動状況報告、自治会行事のお知らせなどである。会議では、「事業所の夜間巡回を2時間に1回から1時間1回に増やしてほしい」との家族の要望があり、改善を行った。直近では平成21年1月10日に運営推進会議を開催した。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の意見、要望などは家族の来所時や介護計画作成などの際に聞くようにしている。家族会をクリスマスパーティーに合わせて開催し、家族との交流を図っている。運営推進会議で提案された夜間巡回を増やしてほしいとの家族の要望を取り入れ運営に反映させている。意見箱を玄関に設置しているが、利用頻度は低い。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 「御前田自治会」に加入しており、自治会主催の節分、盆踊り大会、どんど焼きなどの行事に利用者職員が参加している。老人会が行う町内清掃にも参加して地域との交流に努めている。敬老の日や八口ウィンには近くの小学校の生徒が事業所を訪れ利用者と交流している。事業所の管理者が地域包括支援センターの依頼により、毎月1回程度「認知症サポーター講座」の講師を務めている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は開設時に当時の経営者が作った。当事業所では、家庭的な環境のもとで、利用者が能力に応じて自立して、安心と尊厳のある生活を営むことが出来るよう支援することを理念の主眼としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲示してある。管理者はミーティングなどの機会を利用して、理念の趣旨や狙いを職員に説明してその共有を図っている。実際のサービスの提供に当たっては、「生活の主体は利用者であり、利用者を動かすのではなく、職員が動く」ように指導している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「御前田自治会」に加入している。自治会の節分、盆踊り大会、どんど焼きなどの行事に参加しており、老人会が行う町内の清掃行事に参加するなど地域との交流に努めている。敬老の日やハロウィンには小学生が事業所を訪れ、利用者とは交流している。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の趣旨、内容は管理者が職員に説明しており、自己評価の取りまとめは職員の意見を聞いたうえで管理者が行った。自己評価票と外部評価結果報告書は玄関の戸棚に置かれており、職員は読んでいる。評価結果は職員にフィードバックし、課題について説明している。今後は評価結果のコピーを職員全員および家族に配布する予定である。		自己評価及び外部評価の結果について職員への一層の周知徹底を図ると共に、家族会や運営推進会議でも報告してサービス向上に活用することを期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催は3~4ヶ月に1回のペースで、直近は平成21年1月10日である。会議のメンバーは利用者、家族代表、自治会長、老人会会長、地域包支援センター職員および当事業所職員で、テーマは活動状況報告、自治会行事のお知らせなどである。「夜間巡回を現行の2時間に1回から1時間に1回に増やしてほしい」との家族の要望があったため改善した。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	「横浜市グループホーム連絡会」の「青葉・緑ブロック会議」の幹事を務め、区役所担当者とは情報交換や交流を図っている。当事業所の運営推進会議委員である地域包括支援センター職員とは緊密な交流を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、行事などのスナップ写真を掲載した「コスモス通信」により家族に事業所の活動状況を報告している。利用者個人ごとの暮らしぶりや健康状態についても各家族に手紙で毎月知らせている。利用者からの預かり金については毎月、請求書と領収書を添付した明細書を家族に送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は毎年1回、クリスマスパーティーに合わせて開催し、家族同士の意見交換や交流を行っている。家族の意見などは家族の来所時や介護計画作成の折などに聞いている。「夜間巡回を1時間に1回に増やしてほしい」との家族の要望に応え、そのように変更した。玄関に意見箱を設置しているが、利用は少ない。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動の際は利用者に説明し、新旧職員の紹介と挨拶を行っている。家族へは来所時や顔写真を掲載した「コスモス通信」により報告している。新任職員と利用者との間の良好な関係を保つために、新任職員は必ず名前を名乗ってから話しかけるように指導している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員研修は入職時に管理者が行っている。外部研修の受講料、交通費は法人負担としている。受講者は研修報告書を作成し、申し送りでの職員に伝えている。介護福祉士などの資格取得を奨励しており、テキスト代などを補助している。研修計画は作成していない。		職員研修について、計画的・段階的育成計画に基づき研修を行うことが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「横浜市グループホーム連絡会」の交換研修会への参加や2ヶ月に1回開催の「青葉・緑ブロック会議」での同業者との交流を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる。当管理者が近くのグループホームの運営推進会議委員を務めており、日常的に情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望者には入居前に本人と家族のアセスメントを行い、その結果に基づき職員が相談して体験入居の是非を決めている。1～2日の体験入居を行い、医師の意見を聞いた上入居可能と判断された場合は本入居に移行している。新規利用者にはベテランの職員が対応し、管理者も積極的に声かけするなど配慮している。</p>		
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>「利用者と職員の関係は縦の関係ではなく、横の関係にある」という考え方の基に、職員は、利用者と共に泣いたり笑ったり、お互いに支え合う関係を築くよう心がけている。職員は利用者から編み物、雑巾の縫い方や手紙の書き方、習字などを教わっている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の意向や思いはアセスメント記録や家族の話などにより把握している。重度の人や思いの把握が困難な人には声かけしたり、表情や日々の行動パターンなどから汲み取るようにしている。最初のアセスメントだけでなく、その都度、家族に相談して適切に対応するように心掛けている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成担当者がアセスメント表を基に、家族、職員、看護師と協議して作成しており、疾患者などの場合は医師の意見を取り入れている。介護計画書は家族に送付し、1部は家族の記名・捺印の上、返送してもらっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は基本的には6ヶ月ごとに見直しているが、家族の要望や利用者の状態変化があった時は随時、現状に即した新たな計画を作成している。緊急な見直しが生じたときは電話などにより家族と相談し、医師や看護師など必要な関係者と協議の上、作成している。</p>		<p>介護計画は、家族の要望や状況変化、職員の意見に基づき現場では随時見直しているが、介護計画作成が後追いとなっている。ケア内容を変更した際は、介護計画書に反映することが望まれる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けている。パート職員の看護師2名が各週1回、交代で利用者の健康相談を行い、健康状態を「ナース申し送り簿」に記録し、職員に周知している。歯科衛生士による口腔ケアを週に2回実施している。利用者の理容などは職員が行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の利用も可能である旨を入居前に説明してあるが、現在は利用者全員が協力医の受診を受けている。毎週1回、協力医とその看護師が事業所を訪問し健康管理を行っている。協力医は内科が専門であるが、必要な場合は認知症などの専門医を紹介するなど適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについては希望があれば受け入れる方針で、「重度化した場合における対応に係わる指針(看取りに関する指針・連携体制について)」により、利用者の入居時に説明している。重度化に至った段階で家族、医師、看護師および職員で対処方法を協議している。職員にはマニュアル「ターミナルケアのあり方」により研修を行っている。看取りの経験がある。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する書類は事務室に保管しており、事務室を出るときは出入口のドアを施錠している。職員の雇用契約締結に際しては個人情報の守秘義務に関する誓約書を取り交わしている。居室を訪問するときは声かけとドアのノックの励行、介助に際しては「愛情が感じられる言葉遣い」をするなど日ごろの言葉掛けや対応に配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、お茶、散歩など大まかな1日の流れは決まっているが、それ以外は利用者それぞれのペースで過ごしている。朝遅く起床する人、居間でテレビを見る人、入浴後に少し遅れて食事する人、食後居間で新聞を読む人、ビール(ノンアルコール)をのむ人など、それぞれの思いに沿って過ごせるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は週の4日分は管理栄養士の職員が、3日分は食材の配達業者が作成している。献立には利用者の好みの食べ物や季節の食材を取り入れるよう配慮している。利用者が一緒に買出しに出かけ、食材を自ら選ぶときもある。利用者と職員は料理の盛り付けや食後の食器拭きを一緒にいき、同じ食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間帯は基本的には午前中となっているが、本人の希望によって午後や夕方入浴も可能である。日曜日の入浴は基本的には無い。毎日入浴する人もいるが、平均的入浴回数は1週間に2～3回である。入浴しながらいない人には言葉掛けなどを工夫して誘導している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は雑巾縫い、居間の掃除、配膳準備、食器洗いなどそれぞれの役割分担を行っている。玄関前に飾られた鉢花の手入れ、グループでのトランプゲームなど、一人ひとりの役割や楽しみごとの支援をしている。動物園や公園の花見などへ車で出かけるなど気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園やお寺などへ日常的に散歩している。車椅子利用者6人は職員が同行し、2～3回に分けて出掛けているが、散歩ルートや行き先を職員に告げて一人で散歩する人もいる。散歩の途中、近くのケーキショップに立ち寄ってお茶をしたり、スーパーでの買い物などを楽しむときもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはチャームを取り付けてあり、日中は鍵を掛けていないが、夜間は防犯対策上、施錠している。不意の外出については、職員の連携による見守りに対応している。家族の了承の下に、事業所名を記した小さなワッペンを上着の腕に取り付けている人もいる。ワッペンは目立たないようにデザインに配慮している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の立会いの下に防災訓練を実施している。平成20年9月に行った防災訓練では消防署員、利用者、職員が参加して、火災の発生を想定した消火器の使用法、通報・誘導、簡易担架の作り方などを訓練した。次回4月11日には地震を想定した避難訓練を消防署の指導の下に行う予定である。非常用食料と飲料水の備蓄はある。		近隣に住んでいる職員や自治会などのネットワークを活用し、地域住民も参加した防災訓練、夜間の災害発生を想定した訓練を実施することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士の有資格者である職員と食材配達業者の栄養士がそれぞれ専門的な観点からカロリーチェックを行っている。バイタル測定表に利用者の食事摂取量、水分摂取量などのデータを記録し健康管理している。協力医での年1回の健康診断や血液検査で医師のチェックを受けている。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下の壁には紙細工の折鶴、塗り絵や行事のスナップ写真が掛けられ、居間のテレビの上には人形や動物のぬいぐるみが飾られている。コンサートなどの演奏に使われるピアノも置かれており、家庭的である。居間の大きなガラス窓の窓越しには住宅街が眺望でき、明るい雰囲気を感じられる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には人形や花が飾られ、仏壇や使い慣れたテレビ、テーブルと椅子、整理たんすなどが持ち込まれている。テレビやたんすの上には家族の手紙や写真などが飾られ家庭的で居心地よく過ごせるような工夫がされている。各居間には鏡と洗面台のキャビネットが設置されている。		



# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	コスモス長津田
(ユニット名)	コスモス長津田
所在地 (県・市町村名)	横浜市緑区長津田みなみ台1-6-7
記入者名 (管理者)	尾上 隆二
記入日	平成 21年 2 月 24 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は重要事項説明書や運営規定に明記されており、管理者とスタッフが日々ケアについて話し合っており、理念の共有化を図っている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの玄関やロッカールームなどに掲示されており、いつでも見る事が出来るようになっているし、日常的に具現化するようにスタッフ同士で話し合っている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホームの事務所入り口に大きく明示してあります。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の商店などへ利用者と共に食材の買出しに行ったり、散歩の途中に立ち寄りなど、日々日常的な付き合いができるように努めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加し、地域の行事にはほとんど全て参加している。又、老人会による清掃にも加わっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣のケアプラザなどで、認知症の理解を啓発する講座の講師をしたりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員で作成し外部評価は管理者がスタッフに還元している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			今後、運営推進会議での意見等をサービスに生かしていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	GH連絡会・青葉・緑ブロックの幹事を務めており区や市の担当者とも頻繁に意見交換をしてサービスの向上を図るよう努めている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	順次研修会等にさんかして後見制度などの権利擁護について学ぶ機会を持っている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法のレジメをスタッフ全員に配布し、ミーティングで話し合い防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書を提示し、説明し、理解納得した旨のサインを頂いている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関脇に御意見箱を設置してある。第三者機関の窓口の事も玄関に明示している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月「コスモス通信」を発行しているほか写真や毎月の出来事などを手紙に書いたり、電話などで連絡をとっている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>			<p>逐次ご家族と連絡をとり、御意見や御不満等に耳を傾けるよう努めておりますが、今のところ御不満や苦情などありません。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日常的に話し合っております。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>努めている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>努力、配慮している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々のOJTはもちろん、市や県などの研修会にも参加してもらいスキルアップをはかっている。		GH連絡会の相互研修に3めいさんか。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会、市の会合を通じて取り組んでいる。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる			懇親会などを継続して行ないたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修や資格獲得を目指して働いて頂いている。就業規則は作成してあります。健康診断に行ってもらおうよう補助もしている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所してからもご本人の気持ちを第一に受けとめる努力をしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	御家族からの相談は積極的に承り、助言、手助けなどをしていく。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族への支援は、時の経過と共に変化するので、その都度対応するように努力をしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	GHでは介護する側、される側という認識は利用者の方々はあまりお持ちではない。喜怒哀楽を共にして一緒にすごすのは当たり前の事で互いに支えあってゆく関係を築いていると思う。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	築いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人、友人はいつでも来られる体制をとっているし、来ていらっしやる。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている			関係は把握しており、相互に支えあうように努力します。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	大切にしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いを第一に考え、上手く表現できない方に対してもその思いを忖度している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを通じて把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式などを利用して一人一人の状態を総合的に把握するよう日常的に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			介護スタッフの能力に合わせた計画を作ってしまう事があるので、利用者本位の計画を作成したい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	常に見直しをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のアプローチや取り組みの失敗、成功等気づきをスタッフ全体で共有するように務めている。日々の申し送りや毎月の全体会議で話し合っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	支援できていると思う。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議や防災訓練などを通じて地域と連携している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の地区センターや他のGHなどに行き行事などに参加している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括の主任相談員の方と定期的に連絡を取り合っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回訪問医師、看護しが来所して往診している。他に週に2回看護師も来ている。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	治療を受けられるよう支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週1回訪問医療のほかにも日常的に相談等をしている。主に火曜と日曜に看護師がきて体調管理等をしている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	連携して努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	共有するよう努めている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族、医療関係者と共にスタッフ全員でチームを組み支援している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご自宅で使用していたものや仏壇、仏具などを居室に移してダメージを防ぐ事に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護・個人情報の取り扱いには気を使っている。	
51	<b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	可能な限り自己決定の支援をしている。	
52	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースで生活して頂いている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<b>身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	心得のあるスタッフが散髪や化粧などを行っている。	
54	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お好きな食べ物の注文を聞いて献立を考えている。	
55	<b>本人の嗜好の支援</b> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	出来る限りご本人の希望を取り入れている。時折ビールを飲まれる方もいる。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄のパターンを把握して、声掛け、誘導をしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調やご希望に沿って入浴を楽しめるよう努力をしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	散歩や外出、買い物、昼寝、入浴などを考慮して例えば昼夜逆転など生活のリズムが乱れないように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器洗い、食器拭き、食材の皮むき、配膳準備、清掃などホームでの役割を担って頂いている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理が出来る方には一緒に買い物に行ったりして支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日等には自由に散歩を楽しまれている方もいらっしゃる。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	良い季節、天候を選んで、利用者全員での外出を楽しんでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室から家族に電話をしている方、手紙を心待ちにしている方もいらっしゃる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	24時間いつでも来訪を歓迎しております。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設以来一度も拘束していません。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外部からの不審者の侵入を防ぐ為カギをかけている事もある。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間も定期的に巡視して安全に配慮しています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	異食などの兆候が見られる方などには十分注意をし、包丁などの保管にも配慮している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の日々の変化にも申し送りなどで共有しケア・カンファレンスを通じて事故防止に取り組んでいる。誤薬などのないように声だし確認をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時他の職員や医師が駆けつける体制をとっている。		全ての職員が応急手当出来るようにしたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常持ち出し袋を用意している。地域の人たちとの交流を深める努力をしている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人一人のご家族の方と話し合いを随時行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	きずきの徹底をはかり、情報を共有し、対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人について行っている。		副作用について理解を徹底したい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の予防と対応に日々取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	週1回の歯科衛生士の来訪のほか、毎晩口腔ケアを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録をとって支援している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	水まわりのところに手洗いの方法を貼ってあるほか、季節ごとに予防のミーティングを行い対策を講じている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫の温度チェックをしている。 食材はその都度必要な分だけ購入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を植えたりして親しみやすいよう工夫をしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には花を飾ったり、大きく光を取り入れたりして居心地良く過ごせるようにしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分のペースで皆さん過ごされています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の好みに合わせて居室を使用されています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度調節などはこまめにチェックしています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			手すりなどが居室内にもついていると良いと思われるときがある。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の御希望を具現化するよう支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	近くに複数の公園があり、天気に恵まれた日には毎日のように散歩に出かけている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家庭的な雰囲気の中で、安心して、安楽に過ごせるように心がけています。